

## 日本体力医学会学会賞の受賞論文

学会賞 (JPFSM) :

### **Post-exercise taurine administration enhances glycogen repletion in tibialis anterior muscle**

Yumiko Takahashi, Yutaka Matsunaga, Yuki Tamura, Eiki Urushibata, Shin Terada, Hideo Hatta

*Department of Sports Sciences, The University of Tokyo*

奨励賞 :

肥満男性における食事改善, 有酸素性運動, 食事改善と有酸素性運動の併用が  
中心および末梢動脈スティフネスに与える影響

膳法(宮木) 亜沙子<sup>1,2</sup>, 蘇 リナ<sup>2,3</sup>, 熊谷 仁<sup>3</sup>, 田中 喜代次<sup>3</sup>, 下條 信威<sup>1</sup>, 前田 清司<sup>3</sup>

<sup>1</sup>筑波大学医学医療系, <sup>2</sup>日本学術振興会, <sup>3</sup>筑波大学体育系

## 平成27年度学会賞選考を振り返って

学会賞選考委員長 竹 森 重

昨年度の「体力科学」「JPFSM」のそれぞれと両誌をあわせた若手筆頭著者の論文から、いずれも学会員の原著を選んで学会賞を選考しました。JPFSM誌からの一編、若手筆頭著者論文から一編それぞれが、選考委員の先生方の圧倒的支持を得て選考されました。受賞された皆様に心からお祝い申し上げますとともに、数ある学術誌の中で「JPFSM」「体力科学」誌をお選びいただきましたことに改めまして厚く御礼申し上げます。

広く一般からの投稿を受け入れるようになりました「体力科学」「JPFSM」の両誌がさらに優れた雑誌となり、国内外の体力・スポーツ医科学を力強く発展させる推進力として日本体力医学会がさらに輝くよう、この学会賞は学会員の皆様にとっての旗印でありたい。その願いを込めて、「体力科学」誌一般からの本年度の学会賞選考は敢えて見送りました。本年度の「体力科学」誌にも会員からの優れた論文がもちろん多数掲載されているのでありますが、本年度の賞選考見送りで、群を抜いて優れた一編が顕彰される賞として学会賞の価値を高め、来年度からの力強い牽引力となるようにとの期待です。

想えば編集委員会の持続的な努力が実ってJPFSM誌は数ある英文誌の仲間入りを果たし、これからその価値が広く認知されるように努める段階を迎えたところです。この段階での学会および両学会誌の歩みを、学会員皆様の力を結集して強力に推進していただくために、学会賞が担うべき役割はこれからますます重要になります。会員にとっての輝かしい憧れの学会賞であり続けるよう、学会員の皆様の優れた原著論文の投稿を切にお願い申し上げます。

## 一般社団法人日本体力医学会定例理事会（2015年5月）議事録

日時：2015年5月15日(金)午後5時30分～7時30分

場所：AP東京八重洲通り Gルーム

議長：下光輝一理事長

出席者：下光輝一、碓井外幸、大野 誠、小野寺昇、川久保清、栗原 敏、坂本静男、定本朋子、鈴木政登、武政 徹、竹森 重、田中喜代次、田畑 泉、鳥居 俊、永富良一、西平賀昭、浜岡隆文、福永哲夫、山内秀樹、吉岡利忠（各理事）、管原正志（第69回大会長・長崎）、田島文博（第70回大会長・和歌山）、和気秀文（第70回大会プログラム委員長・和歌山）、立身政信（第71回大会長・岩手）

欠席者：荒尾 孝、勝村俊仁、川原 貴、下村吉治、田中宏暁（各理事）、小林康孝、能勢 博（各監事）

### 【審議事項】

#### 1. 前回議事録の承認

理事会開催中に各自で議事要旨の内容確認を行い、訂正等がある場合は申し出ていただくこととし、理事会終了後に承認とすることとした。

#### 2. 平成27年度決算見込みについて（小野寺財務委員）

資料に基づき、平成27年度決算見込みについて報告があり、正式な決算は8月の理事会で報告予定であると説明された。

#### 3. 平成28年度予算案について（小野寺財務委員）

資料に基づき、法人3期目（2015年8月1日～）となる平成28年度予算案について報告があり、例年と異なった点として、平成28年度は平成27年度に実施しなかった名簿作成を行い、その費用を予算に組み込んでいる点、また現状の予算案では1,000万以上の赤字のため、赤字の補てん分として別途積立金預金を取り崩す予定であると説明がなされた。引き続き費用削減や収入増加の方法について検討を行っていくと報告がなされ、審議の結果、承認された。

#### 4. 平成28年度事業計画案について（小野寺総務委員長）

資料に基づき、平成28年度事業計画案について報告があり、審議の結果、本理事会で修正の出た事項を更新する事を前提に承認された。

#### 5. 学会賞について（竹森学会賞選考委員長）

学会賞選考委員会からの提出資料に基づき、審査経過ならびに審査結果が報告された。5月8日に開催された委員会において、学会賞（体力科学）については、学会誌のさらなるレベルアップによる学会の活性化を呼びかける強いメッセージとして授賞を見送る事にした点および学会賞（JPFMSM）、奨励賞については、下記2編の論文を各学会賞に選考したことが報告され、承認された。

【学会賞（JPFMSM）】※対象論文数 8編

◎「Post-exercise taurine administration enhances glycogen repletion in tibialis anterior muscle」(3巻5号)  
Yumiko Takahashi, Yutaka Matsunaga, Yuki Tamura, Eiki Urushibata, Shin Terada and Hideo Hatta

【奨励賞】※対象論文数 体力科学 19編, JPFMSM 7編

◎「肥満男性における食事改善、有酸素性運動、食事改善と有酸素性運動の併用が中心および末梢動脈ステイフネスに与える影響」(体力科学63巻3号)

膳法（宮木）亜沙子、蘇 リナ、熊谷 仁、田中喜代次、下條信威、前田清司

#### 6. 受動喫煙防止のための活動に関する御意向確認について（小野寺総務委員長）

本学会が加盟している健康日本21推進全国連絡協議会より「受動喫煙防止のための活動に関する御意向確認について」の文書が届いたと報告があった。内容は受動喫煙防止活動に賛同してほしい旨の依頼であり、審議の結果、受動喫煙防止活動に賛同することとし、先方に伝えることとなった。

#### 7. その他

##### 1) 日本医学会連合の選挙について（小野寺総務委員長）

本学会が加盟している日本医学会連合が選挙の年にあたり、現在選挙運動がされていると報告があった。他団体から立候補のあった候補者の推薦団体にはならない事、投票に際しては理事長に一任する事について提案があり、審議の結果、承認された。

##### 2) 理事候補について（小野寺総務委員長）

理事は25名以内と定款で定められており、選挙で選ばれた24名に後1名加えることが出来ると説明がなされた。今回の選挙で女性が1人も候補者に入らなかったため、残り1名の枠を理事長推薦枠として、女性の理事候補者を推薦したいと提案がなされた。審議の結果、承認され、9月の理事会前までに候補者を検討し、理事会で諮ることとした。

### 【報告事項】

#### 1. 理事選挙結果の報告及び役員選挙の進捗状況（西平選挙管理委員長）

資料に基づき、理事選挙で当選された方が報告された。また、今後の選挙スケジュールについて、前倒しできる箇所を前倒しして進めたいと提案があり、審議の結果、承認された。

#### 2. 各種委員会報告

##### 1) 総務委員会（小野寺委員長）

資料に基づき、前回理事会で指摘のあった委員会規程のかつこ表記を統一したと報告された。

また、来年度より大塚製薬株式会社が賛助会員として入会されると報告された。

##### 2) 編集委員会（鈴木委員長）

編集委員会報告として配布資料が配られ、以下の

通り報告された。

- ・論文末に記載する“利益相反”に関する記載事例について、原著論文等に関する自己申告による利益相反申告書（様式1）に記載されている“利益相反状態”に該当しない場合でも、①共同研究者に企業の研究員が含まれている、②ある企業が制作した器具・装置等を用いた研究で、その制作に携わった方が共同研究者である、③利益相反申告書に記載されている“利益相反状態”に該当しない額の研究費を企業から受領して行った研究、など様々なケースが生じていると報告があり、論文末の記載様式について議論がされたが、本理事会では結論には至らず、編集委員会で議論を重ねる事となった。
- ・その他、JPFISM、体力科学誌の投稿・記載状況、現在の委員会の担当巻号数が報告された。

### 3) 学術委員会

- ・プロジェクト研究委員会（田中（喜）委員長）  
4月末を応募メ切と設定していたプロジェクト研究について、現在委員会で審議中で8月の理事会に結果報告をする予定であると報告がなされた。

### 4) 渉外委員会（永富委員長）

渉外委員会報告として配布資料が配られ、以下の通り報告された。

- ・2016ECSS-JSPFSM交流シンポジウムに推薦した福典之会員（順天堂大学）の企画案がECSSプログラム委員会に採択が決定した。
- ・2015ACSM参加助成者2名が決定し、学会HPに掲載を行った。
- ・ACSM参加助成制度について会員アンケートを実施し、改革を検討する予定。
- ・EIMについて賛否両論が出ており、渉外委員会の下部組織としてEIM検討小委員会を設置し、検討を続けることとなった。
- ・「脳心血管疾患予防に関する包括的リスク管理チャート」について、9の内科系学会と日本疫学会、本学会が合同で作成した表記チャートが日本内科学会誌に掲載された解説論文とともに、日本内科学会雑誌2015年4月号に掲載されプレスリリースが実施された。
- ・ECSS 2015 Malmö大会（6/24-27）ECSS-JSPFSM交流シンポジウムが6/26 16:20より開催予定で、本学会より藤田聡会員（立命館大学）と永富良一渉外委員会委員長が講演予定。

### 5) 広報委員会（武政委員長）

英文版の学会HPを本日（5/15）付でリニューアルした旨が報告された。

### 6) プログラム委員会（小野寺総務委員長）

配布資料に基づき、日本スポーツ体育健康科学学術連合第1回大会における合同シンポジウム企画案の説明がなされ、テーマ「東京オリンピック・パラリンピックに向けたスポーツ普及による健康増進戦略を考える」、座長に荒尾孝プログラム委員長と山口泰雄先生（神戸大学）、演者は現在交渉中と報告がなされた。

日 時：2015年8月24日（月）13:45～16:00

場 所：国土館大学

また、第70回大会の理事会企画プログラムについて、テーマ「社会的成果を生み出す介護予防－ミクロとマクロの研究連携！」を実施する予定であると報告がなされた。

### 7) 倫理委員会（坂本委員長）

本日、日本医学会の研究倫理教育研修会に参加した旨、報告がなされた。

### 3. 第69回（長崎）大会の大会報告について

#### （菅原第69回大会長）

資料に基づき、大会収支決算について報告があり、黒字決算で本部に406,557円を戻した旨、報告がなされた。

### 4. 第70回大会（和歌山）の準備状況

#### （田島第70回大会長、和気第70回プログラム委員長）

配布資料により、大会のプログラムや準備状況等について報告があった。

会 期：2015年9月18日（金）-20日（日）

会 場：和歌山県民文化会館、

ホテルアバローム紀の国

テーマ：げん紀の国 和歌山

～オリンピック・パラリンピックのスポーツ

医科学と健康増進体力医学の融合～

### 5. 第71回大会（岩手）の準備状況について

#### （立身第71回大会長）

大会の準備状況等について報告があった。

会 期：2016年9月23日（金）-25日（日）

会 場：マリオス、アイーナ

## 一般社団法人日本体力医学会定例理事会（2015年8月）議事録

日 時：2015年8月28日(金)午後5時30分～7時00分

場 所：八重洲倶楽部 第2・3会議室

議 長：下光輝一理事長

出席者：下光輝一、荒尾 孝、碓井外幸、勝村俊仁、  
栗原 敏、鈴木政登、武政 徹、竹森 重、  
田中喜代次、田中宏暁、田畑 泉、永富良一、  
福永哲夫、山内秀樹、吉岡利忠（各理事）、  
小林康孝、能勢 博（各監事）、  
田島文博（第70回大会長・和歌山）

欠席者：小野寺昇、大野 誠、川久保清、川原 貴、  
坂本静男、定本朋子、下村吉治、鳥居 俊、  
西平賀昭、浜岡隆文（各理事）、  
立身政信（第71回大会長・岩手）

### 【審議事項】

#### 1. 前回議事録の承認

理事会開催中に各自で議事要旨の内容確認を行い、訂正等がある場合は申し出ていただくこととし、理事会終了後に承認とすることとした。

#### 2. 持ち回り理事会議決事項の確認について

##### 1) 第70回大会で開催の県民公開講座の共催について／2015年6月9日開催（下光理事長）

持ち回り審議を行った第70回大会で開催の県民公開講座の和歌山県立医科大学との共催について、特に異議なく承認されたことが報告された。

##### 2) プロジェクト研究について／2015年7月2日開催（田中（喜）委員長）

持ち回り審議を行った本年のプロジェクト研究採択結果について、委員会より「日本の子どもにおける日常の身体活動の実態およびその変動要因の国際比較に向けた評価法の確立」田中千晶評議員（桜美林大学総合科学系 准教授）のプロジェクトが推薦され、承認されたことが報告された。また、今回選考委員が応募したプロジェクトがあったため、今後委員会内で検討を行うと報告された。

##### 3) 監事の当選人数について／2015年7月7日開催（下光理事長）

持ち回り審議を行った監事の当選人数について、監事は4名以内と定款で定められており、今回の選挙では今までより1名増員の3名を当選することにしたと総務委員会から提案があり、承認されたことが報告された。また、次回の選挙では監事の当選人数についても次期体制にて議論した上で進めていくこととなった。

#### 3. 平成27年度庶務報告について（竹森総務委員）

2015年7月31日現在、会員総数4,429名、新入会員362名、退会者648名（内自然退会473名）、購読数は154団体であるとの報告がなされた。また、2年以上会費未納者リストが提示され、2年以上会費未納者については第70回和歌山大会を期限に自然退会とすることが承認された。

なお、会費未納による自然退会者を少なくするため

に、会費収納方法を自動引き落としにすることも検討していくこととなった。

#### 4. 平成27年度事業報告について（竹森総務委員）

資料に基づき、平成27年度事業報告について報告がなされ、承認された。

#### 5. 平成27年度会計報告（決算）について（勝村財務委員長）

まず、今期決算より大会決算及び地方会決算が合算したと説明がなされた。

収入の部 予算に比べて会費収入と論文掲載料等収入が約25万円ずつ増収、雑収入が約40万円増収（計上済みの仮受金の処理）した結果、年度内収入は93,436,094円であった。

支出の部 予算に比べて事業費は約315万円削減し、管理費は予算より約90万円削減し、地方会基金を約450万円計上した結果、全体の支出はほぼ予算額通りで、年度内支出としては90,683,756円であった。

以上により当年度収支としては約275万円の黒字となり、次年度繰越金は50,717,028円になったとの報告があった。本決算については公認会計士によるチェックが行われている事が併せて報告があり、引き続き能勢監事より監査報告が行われ、平成27年度決算が承認された。

今後の検討課題として、賛助会員の勧誘、日本体力医学会健康科学アドバイザー®のインセンティブについて、引き続き検討を行ってほしいと能勢監事より依頼がなされた。

#### 6. 平成28年度会計（予算案）に関する件（勝村財務委員長）

前回理事会で承認された平成28年度予算案について、更新が行われた点として、下記の項目について説明が行われた。

・地方会予算…各地方会から予算の提出があり、その情報を元に更新。

また、それ以外の項目については変更はないと説明があり、審議の結果、平成28年度予算が承認された（収入合計、支出合計ともに89,540,676円の予定）。

#### 7. 評議員推薦に関する件について（吉岡評議員選考委員長）

評議員選考委員会において申請者32名に対しての資格審査を行い、その結果32名全員が資格を有すると認められた旨の報告があり、2015年度評議員候補者として32名（内、女性5名）を評議員会に推薦することが承認された。

#### 8. 日本体力医学会健康科学アドバイザー®継続申請者について（碓井称号委員長）

日本体力医学会健康科学アドバイザー®の称号継続申請者18名の氏名リストが提示され、承認された（内、



終身称号は4名)。

#### 9. 第26回スポーツ医学研修会修了試験結果について (碓井称号委員長)

研修会を受講した参加者の内23名が8月9日に修了試験(試験問題50問)を受け、20名が合格(3名不合格)した旨と試験の概要について報告がなされ、承認された。

#### 10. 大塚スポーツ医・科学賞について(吉岡担当理事)

大塚スポーツ医・科学賞選考規定に基づき、選考委員会で選考した結果が下記の通り報告され、審議の結果、承認された。

奨励賞：光岡かおり会員(至学館大学健康科学部健康スポーツ科学科)「漸増負荷による間欠的等尺性膝伸展運動初期における筋酸素動態と筋力および持久力との関連」

特別賞：東本翼会員(筑波大学)「16週間の持久性トレーニングが中心動脈伸展性と脳循環動態に及ぼす影響」

#### 11. 中富健康科学振興賞の推薦者について (竹森総務委員)

中富健康科学振興賞の推薦依頼が公益財団法人中富健康科学振興財団より届いた旨、報告があった。候補者推薦に関する申し合わせに基づき総務委員会で資料を作成し検討した結果、大島襄名誉会員を推薦したいと提案があり、審議の結果、承認された。

#### 12. 第26回TAFISAワールド कांग्रेस 2019の東京招致について(下光理事長)

日本スポーツ・フォー・オール協議会より、第26回TAFISAワールド कांग्रेस 2019の東京招致についての通知文書が届いた旨、報告があった。なお、開催地決定については10月16日に決定することが説明され、開催地が東京に決まった場合に共催や後援依頼があった際には、協力する方向で進めていくことが承認された。

#### 13. 脳心血管病協議会印刷費、チャート作成費の案分について(永富渉外委員長)

7月25日に開催された第1回脳心血管病協議会の会議にて、「脳心血管病予防に関する包括的リスク管理チャート」の制作費について各学会の負担額が諮られ、本学会の負担額は39,251円となると報告があった。審議の結果、引き続き協力する方向性のため、負担額について承認された。また、本チャートの論文を英文雑誌への掲載を希望するかを各学会で確認するように連絡があったと報告があり、英文雑誌に掲載を希望すると回答することが承認された。詳細な金額等連絡が来た際に、再度理事会で議論することが確認された。

#### 14. 愛媛大会について(竹森総務委員)

第72回愛媛大会の大会長については、既に現地で実行委員会が立ち上がっていることが説明され、次回理事会で大会長を推薦する予定であると説明がなされた。

#### 15. 「食育健康サミット」の開催に係る後援名義依頼について(下光理事長)

学会宛に平成27年度「食育健康サミット」の開催に係る後援名義の使用許可願についての依頼文書が、公益財団法人米穀安定供給確保支援機構より届いたと報告があった。本学会でも関係のある先生がシンポジウムを開催していることが説明され、審議の結果、後援名義の使用を許可する旨の返事を出すことが承認された。

#### 【報告事項】

##### 1. 各種委員会報告

###### 1) 編集委員会(鈴木委員長)

・前回理事会で議論した利益相反に関する点で、現実を記載する事(本研究は株式会社〇〇が共著者となっている、など)で書き改めるようにしたと報告された。

・2016年からJPFISMに英文で抄録を掲載することが決まっており、抄録の管理については大会事務局側にあるため、大会事務局と綿密にコンタクトを取って進めていくと報告された。

###### 2) プログラム委員会(荒尾委員長)

・8月25日に日本スポーツ体育健康科学学術連合の第1回大会が開催され、本学会から「東京オリンピック・パラリンピックに向けたスポーツ普及による健康増進戦略を考える」に関するシンポジウムを実施した旨が報告された。

###### 3) 渉外委員会(永富委員長)

・参加助成制度への応募件数が少ないため、学会HPに会員に向けたアンケートを掲載し、意見・要望を吸い上げた上で、参加助成制度を見直していきたいと報告された。

・EIM検討小委員会の方向性について詰めていきたいと報告された。

##### 2. 役員選挙結果の報告(下光理事長)

配布資料に基づき、役員選挙結果について理事長に鈴木政登現理事、副理事長に西平賀昭現理事と永富良一現理事、常務理事に碓井外幸現理事、評議員会長に下光輝一現理事長、監事に井上茂評議員、定本朋子現理事、小林康孝現監事が当選されたと報告があった。また、副理事長については第1副理事長に投票数の多かった西平賀昭現理事、第2副理事長に永富良一現理事と新理事会にて提案する予定であると説明がなされた。

なお、今回の選挙では九州地区の会員が理事に当選しなかったため、理事会構成メンバーの偏在についても次期体制で議論を進めてもらいたいと提案がなされた。

##### 3. 第70回大会(和歌山)の準備状況

###### (田島第70回大会長)

大会の準備状況等について報告がなされた。

会期：2015年9月18日(金) - 20日(日)

会場：和歌山県民文化会館、

ホテルアバローム紀の国

テーマ：げん紀の国 和歌山

～オリンピック・パラリンピアンスポーツ

医科学と健康増進体力医学の融合～

4. その他

- ・日本医学会連合の役員選挙結果について  
(下光理事長)  
配布資料に基づき、日本医学会連合の役員改選の年であると説明がなされ、選挙結果について報告された。
- ・理事会の申し送り事項について (下光理事長)  
9月の社員総会後に新体制となるため、次回9月

の理事会では理事、各委員長、監事の先生方より、申し送り事項を書面で提出するよう依頼があり、後日事務局よりメールにて依頼することとなった。

- ・新理事会について (鈴木次期理事長候補)  
9月の社員総会後に新理事会を予定していることがアナウンスされた。
- ・研究倫理について (永富理事)  
昨今の報道にもあるように、研究倫理に関する会員に対する教育の場を、本学会として継続して提供してもらいたいと依頼がなされた。

## 第165回日本体力医学会関東地方会のご案内

開催日：平成27年11月28日(土) 13:00～

会 場：杏林大学医学部大学院講堂  
東京都三鷹市新川6-20-2  
JR吉祥寺駅・三鷹駅よりバス20分、  
京王線仙川駅よりバス15分

### 予定プログラム

公開講演会「サクセスフルエイジングのために」

#### 講演 1

「運動ですてきな老後を～認知症・アルツハイマー病  
予防の観点から～」

櫻井拓也 (杏林大学医学部講師)

#### 講演 2

「登山は身も心も豊かにする」

大野秀樹 (杏林大学名誉教授, 社会医療法人財団・  
大和会常務理事)

#### 異分野交流特別講演

「生活習慣病の進展とナチュラルキラーT細胞の役割」

岩渕和也 (北里大学医学部教授)

#### 一般発表

#### 情報交換会

#### ○参加費無料

#### ○一般発表 (講演のみ) の演題申し込み要領

演題名, 発表者および共同研究者とその所属, 講演  
要旨 (400字程度), 連絡先 (氏名, 郵便番号, 住所,  
電話およびFAX番号, E-mailアドレス) をE-mailに  
て平成27年11月6日までに下記にお送りください。

送り先:

事務局担当: 白土 健 (杏林大学医学部衛生学公衆  
衛生学教室)

E-mail: shirato@ks.kyorin-u.ac.jp

奮ってご参加くださいますよう、ご案内申しあげます。

当 番 幹 事: 木崎節子

(杏林大学医学部衛生学公衆衛生学教室)

事務局担当: 白土, 阿部

(E-mail: shirato@ks.kyorin-u.ac.jp)

TEL: 0422-47-5511 (内3460または3461)

FAX: 0422-44-4427

## 第76回日本体力医学会中国・四国地方会のご案内

期 日：平成27年11月21日(土)、22日(日)

会 場：高知大学教育学部51教室  
(高知県高知市曙町2-5-1 朝倉キャンパス)

### ○プログラム

1日目：平成27年11月21日(土)

- 12：15～13：00 幹事会(教育学部11教室)
  - 12：45～13：15 受付
  - 13：15～13：20 挨拶
  - 13：25～15：30 研究発表(1)
  - 15：30～15：45 コーヒーブレイク
  - 15：45～17：15 地域公開講座  
「認知症予防を目指して」(仮)
- 講師：下方浩史先生(名古屋学芸大学大学院教授)  
安藤富士子先生(愛知淑徳大学教授)  
大塚礼先生(国立長寿医療研究センター室長)  
西田裕紀子先生(国立長寿医療研究センター研究員)

18：30～20：30 懇親会(於：三翠園)

2日目：平成27年11月22日(日)

- 9：00～9：30 受付
- 9：30～12：00 研究発表(2)
- 12：00～12：30 総会

### ○大会参加、懇親会参加の申し込み

大会および懇親会の参加申し込みは10月23日(金)  
【必着】までにFaxまたはE-mailをお願いします。

○大会参加費 無料(日本体力医学会の非会員者は1,000円、地域公開講座のみ参加の場合は無料)

### ○懇親会

懇親会費：4,000円(学生・院生：2,000円)  
\*会費の支払いは、大会当日受付にてお願いします。  
会場：「ホテル三翠園」高知市鷹匠町1-3-35  
TEL：088-822-0131

### ○演題申し込みおよび予稿集原稿

- ・演題の申し込みはFaxもしくはE-mailで10月23日(金)【必着】までをお願いします。申し込みの際には、以下の4項目についてお知らせください。
  1. 発表者、2. 所属、
  3. 連絡先(Tel, Fax, E-mail)、4. 演題名
 (Faxの場合は別紙申し込み票をご利用ください)
- ・予稿集の原稿を10月30日(金)【必着】までに郵送またはE-mail(ワード添付書類)でご提出ください。原稿はA4用紙2枚に上下左右の余白を2cm取り、タイトルは18ポイント、所属・氏名・本文は12ポイントで作成してください。発表者が複数の場合

は、演者の前に○印を付けてください。添付されたWord書類はこちらで印刷し、郵送原稿はそのまま複写します。図表も添付可能ですが、こちらで若干の修正を加えさせて頂く場合がありますのでご了承ください。

### ○一般発表について

- ・発表時間は、発表10分、質疑応答4分の計14分とします(演題数によって変更有り)。
- ・発表は、パソコンの画面映写とします。プロジェクタはこちらで準備します。
- ・事務局側で準備するパソコンのOSおよびアプリケーションは下記の通りです。  
Windows8.1：Power Point 2013  
(Macintosh本体の用意はいたしません)
- ・ご自身のパソコンを持ち込まれて発表されても構いませんが、ケーブル接続等の作業につきましては発表者ご自身でお願いします。
- ・Macintoshはプロジェクタとの接続に変換ケーブルが必要です(変換ケーブルの種類によって異なります)。ケーブルは発表者が必ずご持参ください。

### ○会場案内

高知大学HP：<http://www.kochi-u.ac.jp/> 参照

\*JR「朝倉駅」、またはとさでん交通(路面電車)「朝倉(高知大学前)」が最寄りとなります。

\*高速道路の場合は高知ICではなく伊野ICが便利です。

### ○学会誌「体力科学」への掲載用原稿

学会誌「体力科学」への掲載用原稿は、地方会事務局がとりまとめ、学会誌編集事務局へ送付します。下記の書式に従い、E-mailにて11月29日(日)【必着】までに地方会事務局へお送りください。

掲載原稿送付先：jspfsm@mw.kawasaki-m.ac.jp  
(地方会事務局)

(提出原稿書式)

- 1) 原稿の1枚目から演題名、発表者名、所属名、本文の順にお書きください。
- 2) 900字以内になるよう作成してください(演題名、発表者名、所属名、本文を含む)。
- 3) 図表は認められません。

### ○問い合わせ等

〒780-8520 高知県高知市曙町2-5-1  
高知大学教育学部 幸 篤武 宛  
TEL：088-844-8423 FAX：088-844-8423  
E-mail：atsuyuki@kochi-u.ac.jp

## 第12回 JISS スポーツ科学会議 「スポーツ科学 次へのステップ ～リオ五輪, そしてその先へ～」開催のお知らせ

【日 時】平成27年12月10日(木) 9:30~16:30 (予定)

【場 所】味の素ナショナルトレーニングセンター研修室  
住所：〒115-0056 東京都北区西が丘3-15-1

【参加費】無 料

【招待講演】

「ドイツにおける競技者育成システムについて」

Dr.アンチェ・ホフマン/ドイツIATジュニア競技スポーツ部

【招待講演】

「オランダにおけるスピードスケートのジュニアサポート」

【シンポジウム】

「ジュニアアスリートの医・科学サポートを考える」

「JISSにおける医・科学最新情報：新しい競技力向上支援の可能性」など

【その他】

プログラムの詳細や申込み方法は、決定次第JISSのウェブサイト上 (<http://www.jpnsport.go.jp/jiss/>) に掲載します。

※講演内容及び講演者については都合により変更になる場合があります。

お問い合わせ先

国立スポーツ科学センター スポーツ科学研究部  
研究・支援協力課

電話：03-5963-0202 FAX：03-5963-0232

Eメール：research-01@jpnsport.go.jp

## 平成28年度 公益財団法人 石本記念デサントスポーツ科学振興財団学術研究募集

主 催：公益財団法人 石本記念デサントスポーツ科学  
振興財団

THE DESCENTE AND ISHIMOTO MEMORIAL  
FOUNDATION FOR THE PROMOTION OF  
SPORTS SCIENCE

応募資格：

①体育学、健康科学、人間工学、被服科学、運動施設工学等健康の増進と体力の向上に関わる学術、およびその他スポーツ振興に寄与する学術研究に関する講座を持った大学、およびこれに準ずる研究機関に所属する個人またはグループ。

②高校生から幼児までの教育機関に奉職しており、①に前述した分野で研究または調査活動を積極的に行っている個人またはグループ。

この場合、運動生理学的研究でなくとも、あくまで教育現場に於ける身近なテーマで、すぐにも役立つ研究テーマを求めている。

但し、研究報告等に不慣れな人は、報告書作成に習熟した人を共同研究者に加えて申請のこと。

学術研究テーマ：自由課題学術研究

本財団の主旨に添ったものであり、申請者がこれまで行って来た研究を助成することによって、調査・研究の発展・充実が期待されるものであること。

応募方法：

本年度の公募締切日は平成27年11月9日です。

応募者は、所定の申請用紙に研究テーマ、目的、内容および期待される成果等を簡潔に書き、平成27年11月9日(当日消印有効)までに書面にて下記宛提出すること。

(申請書は所定用紙または当財団ホームページより、B4サイズにてダウンロードしたものとする。但し所定用紙をコピーし使用する場合、平成28年度申請書をコピーのこと、自作による作表および前回までの用紙は使用しないこと)

応募書類 送付先・資料の請求および問い合わせ：

〒543-8921 大阪市天王寺区堂ヶ芝1-11-3

(株)デサント 開発部内

公益財団法人 石本記念デサントスポーツ  
科学振興財団 編集局

TEL：06-6774-0252 FAX：06-6774-0245

ホームページアドレス：

<http://www.descente.co.jp/ishimoto/>

E mail：zaidan@descente.co.jp



## 公益財団法人ソルト・サイエンス研究財団平成28年度研究助成の公募について

1. 助成の対象
    - <一般公募研究>
      - 単年度（平成28年4月1日～平成29年3月31日）
      - ・医学分野：
        - 塩類の生理作用, 健康に及ぼす影響に関する研究
      - ・食品科学分野：
        - 食品の加工・調理・保存及び食品栄養における塩類の役割に関する研究
    - <プロジェクト研究>
      - 3年間（平成28年4月1日～平成31年3月31日）
      - ・食品科学分野：
        - 研究テーマを「“適塩”考究に向けた複眼的研究」とし, 下記のサブテーマ毎に募集する.
        - (サブテーマ1)
          - 塩味増強・低減食品の成分の開発および食品物性の解析と適塩との関係
        - (サブテーマ2)
          - 塩味に対する口腔内味細胞感受性を基盤とする塩味嗜好性と老化等の連動解析
        - (サブテーマ3)
          - 脳における塩味認知に及ぼす共存ミネラル等の影響
        - (サブテーマ4)
          - 塩加減・よい塩梅（あんばい）にみる心理計測学的表現とその理化学的データとの相関解析
  - ・研究助成金額：1件当たり120万円以下  
(昨年までは100万円以下としていました.)
  - <プロジェクト研究>
    - ・食品科学分野：5件程度
    - ・初年度助成金額：1件当たり100～200万円
  3. 応募資格：
    - 日本国内の大学, 公的研究機関等で研究に携わる人(学生・研究生等を除きます).
    - 若手研究者の積極的な応募を期待.
  4. 応募方法：
    - 財団のウェブサイトから平成28年度研究助成募集要領 (Microsoft Word) をダウンロードし, 募集要領に基づいて所定の書式に記入のうえ, 書面により提出.
  5. 応募期間：
    - 平成27年11月1日～平成27年12月10日まで
    - (締切日財団必着)
  6. 提出先：
    - 公益財団法人ソルト・サイエンス研究財団
    - 〒106-0032 東京都港区六本木7-15-14 塩業ビル3階
    - 電話: 03-3497-5711
    - URL: <http://www.saltscience.or.jp>
  7. 選考結果の通知：
    - 財団の研究運営審議会による審査・選考等を経て, 3月に応募者へ書面で通知.
2. 募集件数および研究助成金額
    - <一般公募研究>
      - ・医学分野：22件程度
      - 食品科学分野：9件程度

## 編 集 後 記

体力科学第64巻5号をお送りいたしました。枝元氏らによる、「日常生活下における身体活動の増加が閉経後女性の食後中性脂肪濃度に及ぼす影響」が原著論文として掲載されております。

送られてきた体力科学の冊子を手にとられて、その薄さに驚かれたことでしょう。原著論文が1編と近年では珍しく寂しい掲載状況となりました。J-STAGEを用いて、2005年までの過去10年を遡り体力科学の掲載論文数を確認してみたところ、最も少ない論文数でした。もちろん、投稿中、査読中の論文は複数あるので、この状況が何号も続くことはないかと推測していますが、少々心配してしまいます。

そこで、編集委員会で公表される過去4年間の体力科学の編集状況を見てみました。

2014年9月1日～2015年9月8日

新規投稿55編（採択＝19編、審査中＝11編、不採択＝23編、取下げ＝2編）

2013年9月1日～2014年8月31日

新規投稿68編（採択＝16編、審査中＝20編、不採択＝26編、取下げ＝6編）

2012年9月1日～2013年8月31日

新規投稿70編（採択＝25編、審査中＝14編、不採択＝28編、取下げ＝3編）

2011年9月1日～2012年8月31日

新規投稿80編（採択＝25編、審査中＝14編、不採択＝36編、取下げ＝5編）

これらのデータで目につくことは、投稿論文数が年々減少していることです。4年間で25編、約3割も投稿数

が減りました。この要因として、2011年8月から2015年8月までに会員数が5197名から4429名へと、769名14.8%減少したことが挙げられますが、加えて会員の投稿意欲の低下と英文誌へのシフトも関連するのではないかと考えています。

体力科学の採択状況に目を移しますと、採択率は33%～44%で平均41%でした。同じスポーツ科学分野で最もインパクトファクターが高いBr J Sports Medは8%（2014年7月～2015年6月）、同じオープンアクセスのPLOS ONEで69%（2012年7月～2012年12月）です。編集委員間の判定基準の統一や審査員へのインセンティブを検討するなど、信頼される審査システムを整備する努力が必要でしょう。

また、取下げが毎年複数見られる点も気になります。著者が編集委員や査読者の意見を承服できない、あるいは対応不可能と判断したためと推測されます。編集委員の一人として、著者に取下げという選択をさせない、著者に利益となる審査・判定を心がけたいと思います。

言うまでもなく、学術誌はその学会の質を反映しており、質の高い論文がより多く掲載されることで学会員のメリットが増します。今後より多くの質の高い論文が投稿・掲載されるよう、一編集委員として取り組んで参ります。また一会員として、最近は数本続けて不採択の判定を頂き掲載の機会を逸していますが、確かな論文を投稿し情報発信する努力も忘れないようにしたいと思います。

宮 地 元 彦

---

### The Japanese Journal of Physical Fitness and Sports Medicine Vol.64, No.5

---

#### 体 力 科 学 第 64 巻 第 5 号

平成 27 年 9 月 25 日 印 刷

平成 27 年 10 月 1 日 発 行

編集兼発行者  
発 行 所

鈴木 政 登  
一般社団法人日本体力医学会  
〒112-0012 東京都文京区大塚 5-3-13  
ユニゾ小石川アーバンビル4階 学会支援機構内  
TEL：03-5981-6015 FAX：03-5981-6012  
E-mail：jpsfsm@asas.or.jp

編 集 事 務 局

〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合1-1  
鶴岡印刷株式会社内  
TEL：0235-22-3120 FAX：0235-22-3120  
E-mail：hj-tairyoku@turuin.co.jp

印 刷 所

〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合1-1  
鶴岡印刷株式会社

---